

# 株式会社宮城衛生環境公社



代表取締役  
砂金 英輝 氏

## ●企業の概要

企業名：株式会社宮城衛生環境公社

代表者：代表取締役 砂金 英輝

住所：宮城県仙台市青葉区熊ヶ根字野川26-6

設立年：1982年（創業1982年）

業種：廃棄物処理業、清掃業

資本金：30百万円

従業員数：178名

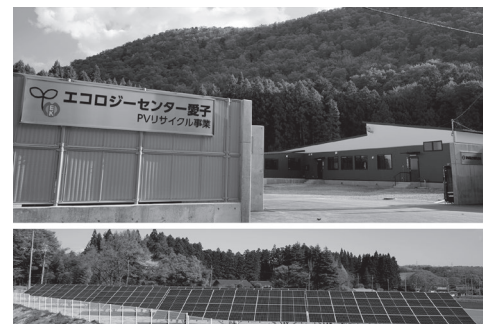
## ●事業の概要

当社は廃棄物の収集・運搬・処分および清掃業務を中心に、仙台市内の家庭ごみの収集運搬のほか、自社の安定型最終処分場での廃棄物の処分、使用済み太陽光パネルの中間処理、浄化槽等の清掃・維持管理、上下水道施設の維持・排管清掃等を行っている。

「明るい衛生環境づくり」（茶色を緑色へ）を経営理念とし、ESG、SDGsにも積極的に取り組んでいる。



本社社屋



エコロジーセンター愛子外観

# 「明るい衛生環境づくり」を企業理念とし、先駆的かつ積極的に脱炭素経営を推進、持続可能な経済・社会づくりの実現を目指し地域を牽引する企業



太陽光パネルリサイクル作業風景



次世代BDF使用車両による家庭ごみ収集



ごみ収集車両配備のタブレット

## ●受賞の理由

当社は、2018年に脱炭素経営を成長戦略に掲げ、2019年に「再エネ100宣言RE Action」に宮城県第1号として参画。2020年度には自家消費型太陽光発電とJ-クレジット活用により再エネ100%を実現。その後も蓄電池等の導入による脱炭素化を推進し、SBT（中小企業版）の認定も受けている。さらに、家庭ごみ収集車には全車両に集積所の位置が入ったタブレットを導入し業務効率化・燃費効率化を図っているほか、東北で初めて次世代バイオディーゼル燃料（BDF）を使用開始するなどカーボンニュートラル達成に向け積極的に取り組んでいる。

また、今後の社会課題として予測されている使用済み太陽光パネルの大量排出問題では、太陽光パネルの耐用年数は20～30年といわれ、2030年代半ばから使用済み太陽光パネルが大量に排出されると見込まれているなか、当社では、使用済み太陽光パネルについて、国が定めているガイドラインに沿って適正なリサイクル化を行い、資源の有効活用ならびに最終処分場への廃棄数量を削減するため、リサイクル施設「エコロジーセンター愛子」を建設し、2023年4月より稼働を開始している。

このような先駆的取組みのほか、森林保全活動や河川流域の清掃活動など、SDGsへの取組み・社会課題の解決に向け積極的に取り組んでいる。

これからも廃棄物の収集・処分、清掃業を中心とする家庭ごみの収集運搬等のライフラインに関わる事業で「地域の衛生環境」づくりへ貢献されること、また、今後増加が見込まれる廃棄物への対応・社会課題の解決に取り組み、持続可能な経済・社会づくりを目指す企業として地域を牽引していくことが期待される。